戦火絶えず遠い平和

戦火のウクライナから逃れ、日本で避難生活を送る人は1700人余に上る。愛知県安城市のルスラン・チェボターロフさん(39)、リディア・ザイエツさん(35)夫妻は、言葉の壁などに悩みながら、暮らしの基盤を築こうと模索の日々が続く。　(四方さつき)

日本で生活願う安定

スマートフォンの翻訳機能で確認しながらボルシチを準備するルスラン・チェボターロフさん妻とリディア・ザイエツさん夫妻＝23日、愛知県安城市で(小沢徹撮影)

安城に避難の夫妻 飲食店で奮闘

「おまたせしました」「ありがとうございます」。二十三日、安城市のパン店「パンのトラ安城店」に隣接する系列のレストラン。客席に料理を運んだり、空いた皿を片付けたりする夫妻の明るい声が響いた。

同僚とは翻訳アプリやジェスチャーを交えてやりとり。スタッフの朝倉夕貴さん(二七)は「伝えたことは一度で覚えてくれるし、仕事も丁寧」と頼りにする。

ウクライナの首都キーウに住んでいた夫妻の生活は二月二十四日、ロシアの侵攻で暗転した。空襲警報を聞くたび、「また誰かが死んだ」とおびえた。近くに住む親族の家も爆撃され、「これ以上、ここにはいられない」。それぞれシステムエンジニア、会計士として働き、暮らしは安定していたが、脱出を決断した。

四月、ウクライナで知り合った日本人を頼って避難先に安城市を選んだ。ただ、その知人が紹介してくれた製造業の仕事は、働き始める前にコロナ禍の影響で操業が止まり、再開の時期が不透明になったという。

地元で居場所が広がったきっかけは故郷の味だ。支援者に振る舞った手作りパンが好評で、「本場の味を提供したい」と「パンのトラ」側から協力を求められた。ライ麦を使った黒パンや、ボルシチなどのメニュー開発でアドバイス。接客のアルバイトを始めた。

今月九日の夫ルスランさんの誕生日は、同僚たちが歌とケーキで祝ってくれた。休日は二人で警報が鳴ることのない街を歩く。「安城の人は親切。自然が多くて住みやすい」。日本に避難して良かったと今は思う。

十日には、東京在住の俳優江副敬子(活動名TAKANE)さんが来店した。支援活動の拠点として東京・新橋に出店するウクライナ料理店のメニュー内容などを夫妻に相談。二人を囲む輪は広がりつつある。

ただ、将来への不安は消えない。「一番の心配は仕事と収入」とルスランさん。今の仕事は楽しいが、言葉の壁があり役割は限られる。母国での経歴を生かした仕事を望むが、日本語教室は週一回。まだ、日常会話もままならない。「法律や専門用語の習得は、とても無理」だと痛感する。

当初は「三カ月もすれば戦況も落ち着き、国に帰れるだろう」と思っていた」と夫妻。今は覚悟を決めている。「当分、戻れない。早く生活を安定させたい」と話す。避難民らの思いを「支援に頼ってばかりではいけない。自立したいし、生活にやりがいを持ちたいという気持ちもある」と代弁する。

ただ、職探しの障壁となっているのはやはり言葉という。「仕事の幅が広がると分かっていても、日本語の習得は簡単ではない」

相談先の一つ、ハローワークの名古屋外国人雇用サービスセンターの担当者は「日常会話程度の日本語が必要となる求人がほとんど。企業にアタックし開拓している状況」と説明する。

就職希望に言葉の壁

ウクライナ避難民の日本滞在が長期化し、自立や生活の安定などをどう支えるかが課題となっている。

国は、知人や身元保証人などがいない十二歳以上に、日額二千四百円(十一歳まで千二百円)の生活費などを支援。独自に一時金を支給する自治体もある。名古屋市は市民の寄付金を原資に一時金の各十万円などを五十三人に給付した。

ただ、避難民らの受け入れ先となった知人や支援者らの負担は増している。

支援に取り組むNPO法人「日本ウクライナ文化協会」(名古屋市)理事長の川口ユドミラさんは、就職希望者らの相談を受けることが増えた、と話す。

ウクライナ侵攻半年

ロシアによるウクライナ侵攻が開始されてから二十四日で半年となる。ロシア軍は、占拠した南部ザポロジエ原発を軍事拠点化し、ウクライナや欧米を威嚇しており、国際社会の懸念が高まっている。戦闘は消耗戦の様相を呈し、双方の犠牲者が拡大し続ける中で、停戦交渉再開への見通しはたたない状況だ。＝核心3面、特集9面、関連7・20・23面、社説5面

ウクライナ軍はヘルソン州など南部奪還作戦を進めており、ゼレンスキー大統領は「ロシアが占領地から離れるまで交渉はできない」と徹底抗戦の構えだ。

二十四日はウクライナの旧ソ連からの独立記念日だが、ウクライナ政府はロシア軍の攻撃激化を警戒。首都キーウでは多人数によるイベントが禁止された。ゼレンスキー氏は「ロシアは今週、卑劣かつ残虐なことをする可能性がある」と国民に呼び掛けた。

ロシア下院評議会は二十五日、ザポロジエ原発に関し、特別声明を出す方向で検討中。ロシアとウクライナ双方は、八月以降続く原発敷地への砲撃をめぐり互いを非難している。

プーチン大統領は侵攻開始後、ウクライナへの米欧の軍事支援を批判。ウクライナ情勢に介入しロシアに脅威を与える国には核兵器使用を辞さない姿勢を示して米欧をけん制していた。米国などの軍事支援は拡大しているが、その後は、こうした発言は行っていない。

平和の俳句

武器もつな　とにもかくにも憎しみもつな

原口　敦子(84)　東京都世田谷区

〈黒田杏子〉一字一句全てに共感。とにもかくにも憎しみもつな。平和に仲よく生きる権利が私達にはあるのです。平和は守ってゆくもの。

中日新聞
発行所　中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511　電話 052(201)8811

何んでも貸します
何んでも貸します
まとまったお金も即日融通
近藤産興株式会社

土曜日は
こども新聞ウィークリー
最寄りの販売店まで

2022年(令和4年)　8月24日(水)　薬害根絶デー

きょうの紙面

高性能「鬼ベアリング」　11面

■ 地方で上積み
最低賃金目安 22道県上回る 2

■ 東京パラリンピック1年
原石発掘プロジェクト注目 20

110 概

予算要求総額と当初予算額の推移

事項要求で上積みも

115兆円

国の二〇二三年度予算編成で、各省庁が財務省に提出する概算要求額が百十兆円規模に膨らむことが分かった。過去最大が「相当な増額」となった防衛費の要求に加え、大幅な物価高になるほかコロナ禍で金や医療といった費が高止まりする物価高騰対策が内容だけで金額を「事項要求」が編成過程で要上積みされるを賄えない借算編成が続き高は一段と膨財務省は八締め切り、二算の編成作業る。政府は十初予算案をまとめる。

二三年度の十一兆六千五だった。財務定して金額をが、成立した去最大となる百六十四億円二三年度は要年ぶりの減額だが、事項要型コロナウイてる予備費の方針で、二算案は、二二